看護学生の英語学習に対するモチベーションとニーズの経年変化

Yearly change of motivation and needs to study English among nursing students

○近藤暁子[1]，野口麻衣[2]
Akiko Kondo, Mai Noguchi
１　東京医科歯科大学大学院，２　東京医科歯科大学附属病院
Tokyo Medical and Dental University, Tokyo Medical and Dental University Hospital

【背景と目的】

グローバル化が進み、看護師においても国際社会での活躍や日本の病院を訪れる外国人患者の看護が求められている。東京都内の医療系大学に所属する看護学生 1~4 年生を対象とした筆者らの調査（Isoda & Kondo, 2022）では、外国人に対して積極的にかかわろうとする態度には普段の外国人と話す機会、主観的英能力、海外渡航経験回数などが正の関連があった。また、英語の学習意欲に関連していたのは学内の海外研修プログラムに参加したことや主観的英語能力であった。一方で学年が高くなるほど学内の海外研修プログラムに参加していたが、外国人に対する態度が消極的になり、英語学習の意欲が低下していた。しかし、この研究では異なる対象の学年間の比較であり、同対象による経年変化は明らかではない。そこで本研究は同集団の学年上昇に伴う英語学習の意欲、モチベーションとニーズの変化を明らかにすることを目的とした。

【方法】

１　研究デザイン：2018 年度の調査（Isoda & Kondo, 2022）と 2019 年度の調査を比較する縦断研究である。

２　対象者：A 大学看護学専攻に在籍する 2018 年度に 1～3 年生で 2019 年度に 2～4 年生であった 165 名のうち、2 回の調査の両方について回答のあった者を分析対象とした。

３　調査方法：講義終了後、研究者が対象者に研究の概要と目的、方法、Google フォームで作成した調査票にリンクする QR コードと URL を記載した研究協力依頼書を配布して口頭で説明を行った。調査期間は 2019 年 9 月～10 月であった。

４　調査内容：学年、主観的英語力、普段の外国人と話す機会、海外渡航経験回数、英語学習に対する意欲、学内の海外研修プログラムへの参加、学外の国際交流イベントに参加、英語に対する興味関心 16 項目、外国人に対する態度、英語学習に対するモチベーション、英語学習に対するニーズ（大学卒業までの英語の到達目標）14 項目であった。

５　分析方法：ニーズの 14 項目は合計点を計算し、高い方がニーズが高いことを示す。モチベーションは内容関与的動機または内容分離的動機に分類した。2018 年度と 2019 年度の同対象の変化について、名義レベルの変数は McNemar 検定、順序レベルの変数は Wilcoxon の符号順位検定を使用して比較した。P<0.05 で有意差ありとした。

６　倫理歴配慮：本研究は、東京医科歯科大学医学部倫理審査委員会で承認を得て実施した（承認番号 M2018-080）。

【結果】

2018 年度と 2019 年度の両方に回答していたのは 80 人（有効回答率 48.5%）で、うち 2 年生は 34 人（42.5%）、3 年生は 21 人（26.3%）、4 年生は 25 人（31.3%）であった。2019 年の調査で、主観的英語能力は挨拶程度が 22.5%、少し話せるが 52.5%、日常会話は可能が 23.8%、ネイティブスピーカーレベルが 1.3%で 2018 年の調査と有意差はなかった（P=0.827）。外国人と話す機会も 2 年間で有意差はなかった（P=0.051）。本学の海外研修に参加したことのある学生は 2018 年が 10.0%、2019 年が 17.5%で有意に増加し（P=0.031）、海外渡航経験回数も増加していた（P<0.001）。

英語学習に対する興味関心についての 16 項目のうち、「英語の学習は楽しい」（P=0.018）、「英語の新聞や雑誌、インターネットの記事に興味がある」（P=0.009）、「全て英語を使った看護の授業を一部受けてみたい」（P=0.011）、「英語の専門書に興味がある」（P=0.004）の 4 項目で有意に低下していた。外国人に対する積極的態度（P=0.636）、英語学習に対する意欲（P=0.892）に有意差はみられなかった。

モチベーションは内容関与的動機を選んだ学生の割合は 2018 年が 76.3%、2019 年が 71.3%で有意差はなかった（P=0.388）。英語学習に対するニーズ 14 項目のうち、「英語の文章が書ける程度」（P=0.026）、「英語で論文を書ける程度」（P=0.006）、「英語の検定を受けたい」（P=0.002）の 3 項目で有意に低下していた。ニーズの合計点の中央値は 2018 年は 43.5、2019 年は 42.0 と有意に低下していた（P=0.008）。

【考察】

1 年後の調査において海外研修に参加・海外渡航経験のある学生が増加していたが、主観的英語能力、外国人に対する態度、英語学習に対する意欲に変化は見られなかった。一方で英語に対する興味関心や英語学習に対するニーズが低下していた。これは、学年が上がるにつれて英語の必修単位が少なくなり、4 年生は英語の必修科目がないこと、看護の専門学習に専念して実習や国家試験に備えているためであると考えられる。特に英語での文章や論文を書くという目標が低下しており、4 年生では卒業論文において英語の論文を読んだり、卒業論文を英語で書くことをサポートする必要がある。また、英語学習が負担になるのではなく、楽しいと思えるような指導方法を工夫する必要がある。

【利益相反】本研究における利益相反はない。

Isoda, M., & Kondo, A. (2022). Japanese nursing students' motivations and learning needs regarding studying English: A cross-sectional study. SAGE Open, April-June, 1-13. https://doi.org/https://doi.org/10.1177/21582440221093345